

伝承地域と民俗の地域差

——年中行事の東西日本対比——

福田 アジオ

- 一 問題の所在
- 二 家の年中行事
- 三 ムラの年中行事
- 四 盆行事の東西
- 五 予祝儀礼の東西
- 六 伝承母体と伝承地域

論文要旨

民俗の地域差のなかに歴史を認識するというのが、従来の民俗学の立場である。これは今でも尊重されなければならないであろう。しかし、その地域差からどのような歴史を認識するかはさまざまな可能性があるはずである。日本列島を等質な社会とし、その中で地域差を時間差に置き換え、一方から他方への変化を想定し、それがいく段階も行われることでの変遷過程を描くのが従来の大方の考えであったが、果たして日本の歴史を日本列島全体で一つのものとして考えられるのかが疑われ出して久しい。殊に人々の生活文化の歴史が列島全体とか日本国全体で一つの歴史を形成しているという前提はひとまず疑ってみることは無意味ではないであろう。地域差に別の歴史を認識する可能性を考えてみる必要がある。

本稿では年中行事の日本の中央部における東西の相違を取り上げて考察した。そして、年中行事全般において関東地方では家単位の年中行事であり、近畿地方ではムラ単位の年中行事中心であることを明らかにした。あわせて、最も家単位と考えられている盆行事と正月の予祝儀礼も比較検討した。その結果、これらにも家とムラという単位が貫徹していることが判明した。

年中行事に表現される家とムラの相違は、それぞれの社会が作り上げてきた歴史の相違を集中的に表現しているのである。関東地方の村落社会の「番」秩序に対して、近畿地方の村落社会の「衆」秩序が年中行事にも貫徹しているのであり、それはそれぞれが別の歴史を展開してきたことを示しているのである。